

東京言語研究所

集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開講しております。〈集中講義〉は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

〈演題〉 日英語における機能的構文分析
—何が適格文と不適格文を決定づけるか—

〈講師〉 高見 健一 氏 (学習院大学教授)

〈日時〉 2019年3月16日(土) 13:00~18:00 (90分講義×3コマ)
17日(日) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

〈会場〉 東京言語研究所 (新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階)

〈参加費〉 一般 12,000 円

学生・大学院生・2018年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ申込みフォームまたはFAXにて下記をご連絡下さい。(定数:50名)

※ 申込み受付締切は3月14日(木)までです。

- ①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦Eメールアドレス
⑧区分 (2018年度理論言語学講座受講生・一般・学生) ⑨所属区分 (大学生・大学院生・
教員・会社員・その他) (上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません)

講師紹介:

大阪教育大学大学院修士課程修了。東京都立大学文学博士。静岡大学、東京都立大学を経て、現在、学習院大学文学部教授。ハーバード大学言語学科客員研究員 (1988-1989 / 1991-1992)、ハーバード大学イエンチェン研究所共同研究員 (2003-2004)。主な著書は、*Preposition Stranding* (1992, Mouton de Gruyter, 市河賞受賞)、『機能的構文論による日英語比較』(1995, くろしお出版)、『日英語の自動詞構文』(2002, 共著、研究社)、*Functional Constraints in Grammar* (2004, 共著、John Benjamins)、『英語の構文とその意味』(2007, 共著、開拓社)、『受身と使役』(2011, 開拓社)、『日本語構文の意味と機能を探る』(2014, 共著、くろしお出版)、『謎解きの英文法』(2004-2018, 共著、くろしお出版) など。

○ 問合せ先

公益財団法人ラポ国際交流センター 東京言語研究所

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 新宿TXビル2階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-9633

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講義 概要

この集中講義では、以下で述べる日英語の6つの表現形式を考察し、機能的な構文分析の具体的方法を示したい。その際、これまでの研究で不適格とされた文でも、その一部を変えたり、文脈を与えたりすると適格になる興味深い言語事実を指摘し、その背後に働いている意味的、機能的制約を明らかにする。

1日目は英語について、第1講では、I like my tea **hot**. や He came home **drunk**. のように、形容詞が目的語や主語を後置修飾する「描写述語構文」にどのような形容詞が用いられるかを考察する。従来、そのような形容詞は、修飾する名詞の一時的状態を表すものに限定されると主張されてきたが、I like my men **tall**. (夫/彼氏には背が高い人がいい)、He was born **Chinese**. のような反例があり、描写述語の意味機能について考察する。第2講では、このような描写述語の Wh 疑問文を考える。従来、例えば主語描写述語の Wh 疑問文は、***How angry** did John leave the room? (Chomsky 1986) のように不適格になると主張されてきたが、**How drunk** did John come home last night? は適格であり、両者の違いの原因を探る。第3講では、He cut the rope., He swam the river. のような他動詞文と He cut **at** the rope., He swam **in** the river. のような自動詞文にはどのような意味の違いがあり、母語話者は前置詞の有無をどのように使い分けているかを明らかにする。

2日目は日本語について、「魚が焼いてある」のような「～てある」構文、「歩きかけの赤ちゃん」のような「V かけの N」構文、「ろくな意見が出なかった」のような「ろくな...ない」構文を考察する。そして同じ形式でも例えば、「*家が焼いてある」、「*歩きかけの人」、「*地震でろくな物が壊れなかった」などとは言えないことを示し、これらの構文に課される意味的、機能的制約を提示する。

そして最後にまとめとして、構文研究をする際には、限られたデータに基づく一般化に陥らないよう、広範なデータで様々な側面からそれぞれの構文を考察することの重要性を指摘したい。

時間割

*進捗状況により変更の可能性があります。

- 1 形容詞の意味と描写述語構文
- 2 描写述語の Wh 疑問文
- 3 他動詞文と自動詞文の意味の違い
- 4 「～てある」構文
- 5 「V かけの N」構文
- 6 「ろくな...ない」構文

16日(土)

- 13:00 講義—1
- 14:30 講義—1 終了 休憩
- 14:45 講義—2
- 16:15 講義—3 終了 休憩
- 16:30 講義—3
- 18:00 講義—3 終了

17日(日)

- 10:30 講義—4
- 12:00 講義—4 終了 休憩 昼食
- 13:00 講義—5
- 14:30 講義—5 終了 休憩
- 14:45 講義—6
- 16:15 講義—6 終了